



患者の転倒・転落リスクをAIで予測し 多職種連携で個別ケアを実施する！

社会医療法人 石川記念会 HITO病院

愛媛県四国中央市
257床／職員数 550名（うち看護職員数230名）



課題・背景

- ①入院患者の高齢化率の増加 ▶ 転倒・転落リスクのマネジメントの重要性増加
- ②従来の転倒・転落アセスメントシートを用いた評価による問題点
 - ・頻回（入院時・1週間毎・安静度変更時）に評価するが、**入院患者の92%が危険度Ⅱ・Ⅲに該当**
 - ・**優先度の高い患者に対して、適切な判断・対応が実施されていなかった**

▼転倒・転落危険度

危険度Ⅰ	1～9点	転倒・転落する可能性がある
危険度Ⅱ	10～19点	転倒・転落を起こしやすい
危険度Ⅲ	20点以上	転倒・転落をよく起こす

目的・目標

多職種が力を合わせ、患者の転倒・転落を防ぎ、
その先にある機能回復、在宅復帰を見据えたケア構築

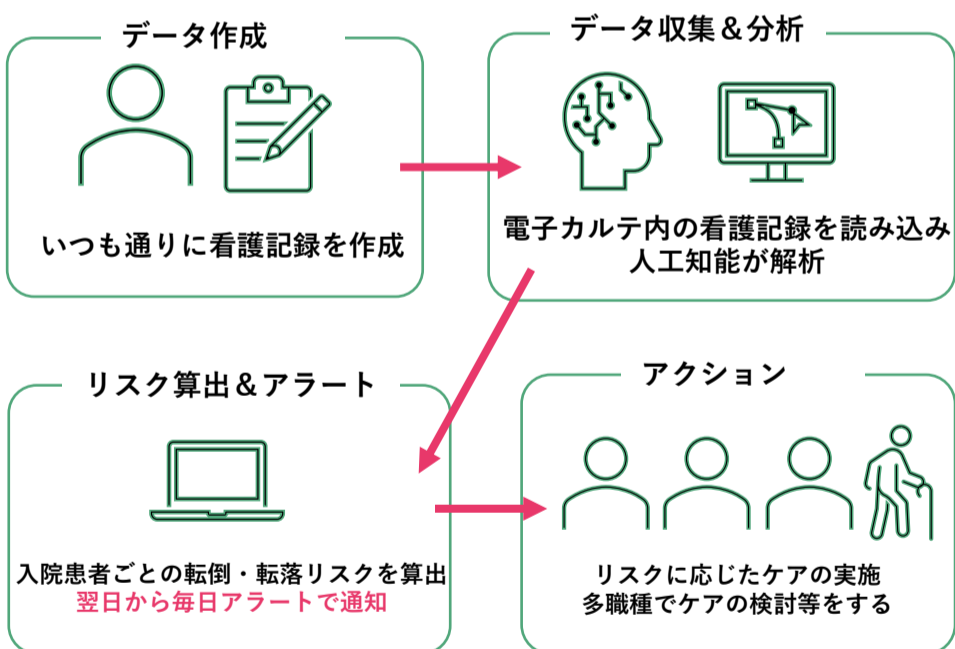
取り組み内容

転倒・転落予測システムAIの活用

言語解析AIが電子カルテの看護記録を解析し、日々、入院患者ごとの転倒転落リスクを予測、アラートを発報し患者ごとのリスク評価をレーダーチャートで示すもの。
評価項目は、感覚・運動機能・活動・意識・認識・排泄・薬剤・言語・医療行為・転倒対策。

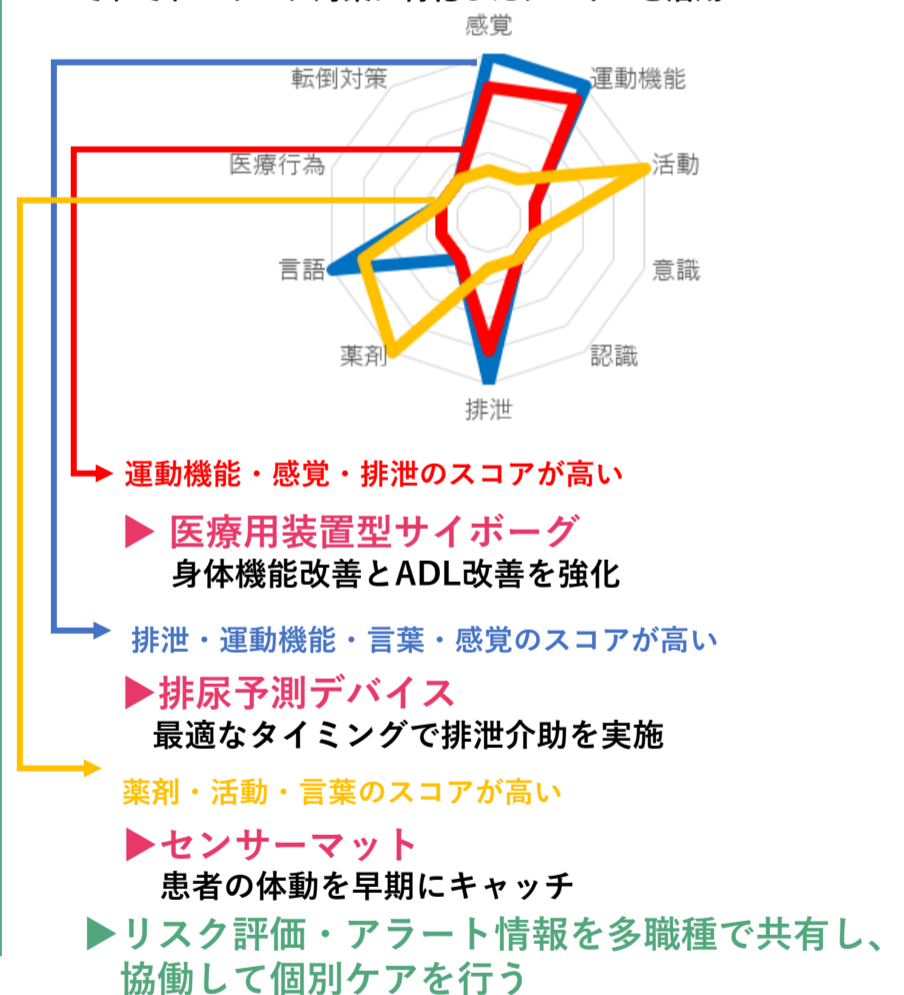
- ① 電子カルテの看護記録を解析し、入院患者の転倒・転落リスクを予測

○運用の流れ



- ② 多職種連携で患者に即したケアに取り組み、転倒転落インシデントを減少させる

○リスク評価をレーダーチャート化し、
転倒転落の要因となるスコアが高い項目に合わせて
それぞれのリスク対策に特化したデバイスを活用



成果・効果

- ① 業務量の減少・削減

○転倒転落リスク判定に係る時間 従来の35分から **0分**へと削減
削減された時間を
チームでのアセスメントや対応策の検討などの時間に活用

○優先度の高い患者に対して、適切な判断・対応が可能になった

○看護記録の精度向上

どのような内容の看護記録を作成すればAIによるリスク判定が詳細になり、
患者の安楽につながるのか、一人ひとりが考えて記録するようになった。

- ② インシデント報告件数の減少

○多職種協働により、患者に即した対策が
講じられるようになったことによる成果

導入前 **460**件 ▶ 導入後 **284**件
(2020年) (2021年)

176件の減少